

○ノルスパンテープ [外]

【重要度】 【一般製剤名】 プレノルフィン buprenorphine 【分類】 経皮吸収型オピオイド

【単位】 ○5mg・○10mg・○20mg/枚

【常用量】 1回 5mg から開始。適切な鎮痛が得られない場合は5~10mg ずつ増量 [最大1回20mg] ■10mg から増量が必要で、副作用の発現が危惧される場合には15mg の使用も可

【用法】 7日毎に貼り替え [前胸部、上腕外側、側胸部のいずれかに貼付] 毎回貼付部位を変更し、同じ部位に貼付する場合は3週間以上あける

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし [慎重投与] (1)

【その他の報告】 7か月間使用後の中止により RLS の増悪を認め、再使用により改善した HD 患者の症例 (中里優一, 他: 透析会誌 47: 145-9, 2014)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし [慎重投与] (1)

【特徴】 中枢神経系 μ オピオイド受容体に作用して鎮痛作用を発揮。週 1 回貼付する経皮吸収型オピオイド。変形性関節症および腰痛症に伴う慢性疼痛以外の管理に使用しない。

【主な副作用・毒性】 呼吸抑制, ショック, 依存性, 悪心, 嘔吐, 食欲不振, 便秘, めまい, 頭痛, 傾眠, 貼付部位異常, 失神, 口腔乾燥, しゃっくりなど。発熱や運動および貼付部位の加温などにより吸収量が増大するおそれがある。

【安全性に関する情報】 副作用の観察は少なくとも剥離から 24hr 後まで必要 (1)

【吸収】 放出速度は 1mg あたり, $1\mu\text{g/hr}$ (1)

【F】 15% (1)

【tmax】 初回貼付後 72hr 以降に定常状態に到達 (1)

【代謝】 CYP3A4 により代謝され活性代謝物ノルプレノルフィンに変換される (1) 未変化体および活性代謝物はグルクロン酸抱合を受ける (1) 血中での存在比は プレノルフィン: ノルプレノルフィン=5~10:1 (1)

【排泄】 尿中排泄率 2~13% (1) 【CL】 650~900mL/min (1)

【t1/2】 はがしてから 15~30hr (1) 初回貼付から定常状態まで 72hr (1)

【蛋白結合率】 94.0±0.20% (1)

【Vd】 430±288L/man (1)

【MW】 467.6

【透析性】 除去されない (1)

【O/W 係数】 資料なし (1) 【TDM のポイント】 TDM の対象にならない。定常状態の血中濃度は 0.2mg 坐剤投与時より低い (1)

【相互作用】 中枢神経抑制剤, 骨格筋弛緩剤, アルコール, CYP3A4 誘導剤などと併用注意 (1)

【備考】 レスキューは NSAIDs などを使用。7 日間は増量しない。皮膚刺激を避けるため毎回貼付部位を変える。同一部位に貼付する際には 3 週間以上あける。切つて使用できない

【適用上の手続き】 医師は e-learning を受講し施患者 (適正使用受講済み医師) の登録を行う。調剤にあたっては取り扱い施設 [医療機関, 調剤薬局] の登録を行い, 処方医が受講済み医師であるかを事前に確認する必要がある (0120-086808)

【更新日】 20161115

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。